

3年2組 社会科学習指導案

授業日 平成25年7月11日(木) 3校時
 授業者 附属新潟小学校 教諭 大矢 和憲
 会場 3年2組教室

1 単元名 「調べよう！くろさき茶豆をつくる仕事」

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領3学年及び4学年の内容(2)ア、イに準拠して設定したものである。

- (2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。
 ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。
 イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり。
 (内容の取扱い)
 (2) 内容の(2)のイについては、次のとおり取り扱うものとする。
 ア 「生産」については、農家、工場などの中から選択して取り上げること。

そのうち、「生産」についての学習が本単元である。

本単元では、新潟市黒埼地区で「くろさき茶豆」を生産・出荷している農家の人々(以下：生産者)を取り上げ、茶豆の生産から出荷に至るまでの工夫や努力、信念を追究させることを通して、生産の仕事に共通する中心概念をとらえさせる。

子どもは、毎日の生活で様々な食べ物を食べている。夏と言えば枝豆。これからの季節、多くの家庭で当たり前のように枝豆を食べるであろう。新潟県は、枝豆の消費量が日本一の「枝豆王国」であり、「くろさき茶豆」は、新潟市が誇る一大ブランド品である。

「くろさき茶豆」は、7月下旬から9月上旬にかけて、新潟市西区黒埼地区で出荷される茶豆である。一般の枝豆に比べ、風味が良く高値で取引されることから、生産量も年々増加している。元々この地域では、昭和初期から茶豆の栽培が始まり、地域の特産物となっていた。そして、平成15年に「新潟市園芸銘産品」に指定されたことをきっかけに、生産者・行政・JAが一体となって生産・流通の拡大とブランド化を推進したことで、新潟市内はもちろん、全国的にも有名になった。主に新潟市内、京浜地域の市場へ流通、販売されている他、近年では契約販売やネット販売も増加しており、高品質・良食味の「くろさき茶豆」は、多くの消費者の期待と信頼を得ている。

一方、生産者は、「おいしい茶豆をたくさんの人に届けたい」という信念をもち、高品質・良食味の茶豆を安定して生産・供給しようと、生産から出荷までの間、実に多くの工夫と努力をしている。例えば、「苗の選別」「剪定」「害虫・病気・雑草に対する対策」「朝もぎ」「収穫後の選別作業」「予冷出荷」などを徹底して行っている。これらの工夫や努力によって、本当に高品質・良食味の「くろさき茶豆」だけが出荷される。だからこそ、多くの消費者がその味を求めて「くろさき茶豆」を購入・消費し、「くろさき茶豆」はブランド品としての期待と信頼を得ているのである。

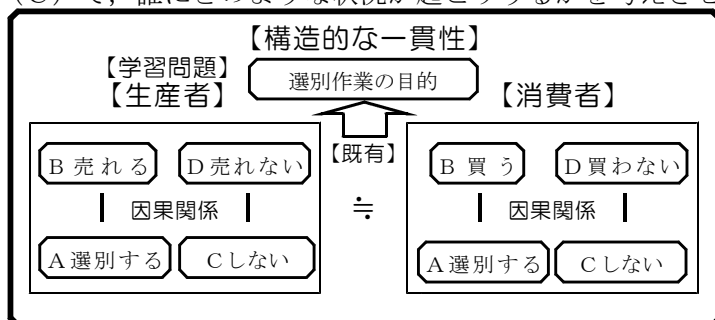
子どもは、普段何気なく食べているものが、生産者の様々な工夫や努力によってつくられていることに気付いていない。「くろさき茶豆」の生産者の工夫や努力、信念と、購入する消費者との相互関係などを追究することを通して、「ものをつくる仕事に携わっている人々は、多くの消費者が喜んで買ってくれる、高品質で安全性の高い商品をつくるために様々な工夫や努力をしている」という生産の仕事に共通する中心概念をとらえることができる単元である。

3 本単元で目指す姿と学びをつなぐ場面、「考えるすべ」

本単元では、「ものをつくる仕事に携わっている人々は、多くの消費者が喜んで買ってくれるような、高品質で安全性の高い商品をつくるために様々な工夫や努力をしている」という生産の仕事に共通する中心概念をとらえる子どもを目指す。本時の具体は、「選別作業をして、本当においしい、いい豆だけを出荷すれば、買う人は喜んで茶豆を買ってくれるし、買ってもらえたら農家の人もうれしくなる。だから農家の人たちは、買う人のことを考えて選別作業をしているんだ」と考える姿である。

子どもは学習を通して、「くろさき茶豆」の生産者がおいしくて、いい茶豆をつくるために様々な工夫や努力をしていることをとらえている。しかし、多くの子どもは、生産者が消費者の購買、消費と、生産者の利益を意識して工夫や努力をしているとはとらえていない。このような子どもが目指す姿になるには、生産者が行っている手段(工夫や努力が表れている事実)と、その目的(多くの消費者に商品を買ってもらえるようにするため)とをつなぐ必要がある。

そのために、単元の終末において、まず、「くろさき茶豆」の生産者が徹底して行っている、「選別作業」を具体的な事実として取り上げ、その目的を追究する学習問題を設定させる。次に、子どもに、選別作業をした場合(A)しなかった場合(C)で、誰にどのような状況が起こりうるかを考えさせていく。このような過程を経ることで、子どもは、「選別作業をしてよりよい茶豆を出荷すれば、多くの消費者の信頼を得て、商品を買ってもらえる」などと、商品と購買・販売の因果関係や、生産者と消費者の相互関係に気付く。そして、気付いた因果関係や相互関係を基に、選別した場合としなかった場合の生産者の立場と消費者の立場とを関係付けるすべを使ってつなぐ。こうして子どもは、「選別作業をすることで、生産者と消費者どちらにとってもよいこと



がある。だから選別作業をしているんだ」と、選別作業の目的について仮説を立てる（『活用の場面』）。その後、子どもは、仮説を確かめることを通して選別作業の目的を理解する。こうして子どもは、【生産者の工夫や努力（手段）】と、【工夫や努力の目的】とをつなげ、目指す姿となる（組織化の場面）。この一連の過程が、本単元における学びをつなぐ力を高めた姿である。

4 指導の構想

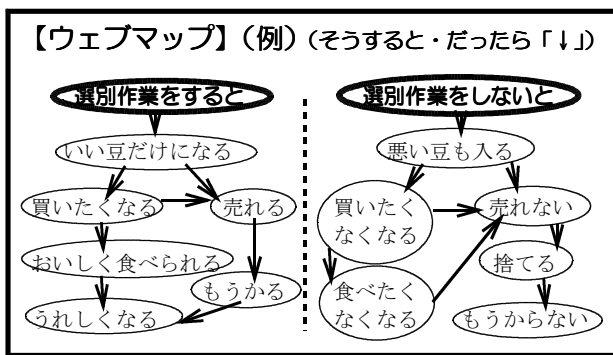
これまでの学習で、「くろさき茶豆」の生産者がおいしくて、いい茶豆をつくるために様々な工夫や努力をしていることをとらえている子どもに、生産者が収穫後に行っている「選別作業」の事実を含んだ生産者の話と作業写真を提示する。生産者は、収穫後、2回～5回（生産者によって異なる）の選別作業を行い、出荷基準に相当する高品質の茶豆だけを出荷している。この作業を通すことで、1日の収穫量のおよそ1割～4割程度の茶豆がはじかれ、出荷できずに廃棄される。

これまで、生産者がおいしくて、いい茶豆をたくさんつくるための工夫や努力をしていることを追究してきた子どもは、この事実で驚きや疑問を感じる。そこで、子どもの驚きや疑問を焦点化し、どのような学習問題がつかれそうかと問う。子どもは、「ちゃんと高級ブランド品のくろさき茶豆なのに、なぜ選別作業をして捨てるのか」と、選別作業の目的を明らかにしようとする学習問題を設定する。このとき、子どもは、既有的認識や作業写真を手掛かりに、学習問題に対して、それぞれに予想を始める。ここで、学習問題に正対する予想をしている子どもは、問いをもてたと判断する。

働き掛け1

選別作業をした場合としない場合の豆の写真を提示し、選別作業をした場合としない場合について、どのようなことが起こりそうかと問い、小グループでウェブマップをつくらせる。

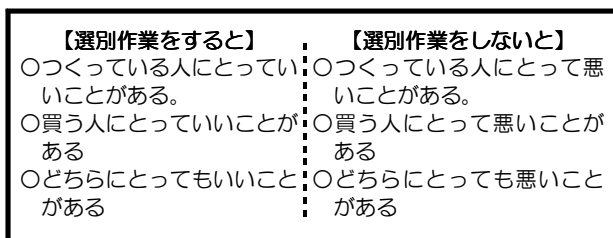
学習問題に対して予想をしているが、選別作業をした場合としない場合の結果や、生産者の立場と消費者の立場とをつなげて考えている子どもは少ない。そこで子どもに、選別作業をした場合としない場合の豆の写真を提示し、「選別作業をした場合としない場合とでは、どのようなことが起こりそうか」と問う。子どもは、双方の場合について起こりそうなことをそれぞれに考え始める。このとき、小グループにマップを配付し、ウェブマップをつくらせる（右図）。子どもは、選別作業をした場合としない場合それぞれについて、既有的認識を基に、起こりうる状況を因果関係でつなげて、多角的に考えていく。



働き掛け2

ウェブマップを見させ、誰にとってどのようなことがありそうかを問う。

選別作業をした場合としない場合とで起こりうる状況を、多角的に考えた子どもに、「ウェブマップを見ると、誰にとってどのようなことがありそうか」と問う。「誰にとって」と問うことで、子どもは立場を視点に、小グループでウェブマップに書いたことを見直す。また、ウェブマップの「選別作業をした場合」の欄には、「良い状況」が、「しない場合」には「悪い状況」が書かれている。子どもはそれらを見て、「生産者にとって良い(悪い)ことがある」「消費者にとって良い(悪い)ことがある」と考える。そこで、全体で「誰にとってどのようなことがありそうか」についての考えを発表させ、選別作業をした場合としない場合とに分類して子どもの考えを板書する(右図)。これにより、子どもは、発言や板書から「選別作業をすると、生産者と消費者どちらにとっても良いことがある」という、生産者と消費者の相互関係に気付く。



働き掛け3

学習問題についてどのようなことが言えそうかを問い、考えを交流させる。

選別作業とその目的の間にある因果関係や相互関係に気付いた子どもに、学習問題についてどのようなことが言えそうかを問い、全体で考えを交流させた後、自分の考えをワークシートに記述させる。このとき子どもは、関係付けるすべを使って、「選別した場合としない場合の生産者の立場」と「選別した場合としない場合の消費者の立場」とをつなぎ、「生産者と消費者どちらにとってもよいことがある。だから選別作業をしているんだ」と、選別作業の目的について仮説を立てる。

こうして仮説を立てた子どもに、「考えは正しいのか」と問う。子どもは、「きっとこのように考えているはずだ」「そのために選別作業をしているはずだ」と、自分たちの立てた仮説が本当に正しいのかどうか確かめたい。このような子どもに、仮説を確かめるためには「何が分かればよいか」「どうすればよいか」と問うことで、子どもは必要とする情報と情報を得るための方法を考え始める。

働き掛け4

「くろさき茶豆」の生産者に電話をし、必要な情報を収集させる。

必要な情報を得るための方法を考え始めた子どもに電話を提示し、「くろさき茶豆」の生産者に電話をさせる。子どもは、選別の基準や生産者の考えなど、生産者に自分たちの仮説を確かめるために必要な情報を聞き出し、自分たちが立てた仮説の正否を確かめる。そのような子どもに、学習のま

めとして、分かったことや考えたこと、思ったことを問い、ワークシートに記述させる。子どもは、選別作業とその目的とを関係付け、再構成し、「選別作業をして、本当においしい、いい豆だけを出荷すれば、買う人は喜んで茶豆を買ってくれるし、買ってもらえたら農家の人もうれしくなる。だから農家の人たちは、買う人のことを考えて選別作業をしているんだ」と考え、目指す姿となる。

5 指導計画 全14時間 (420)

《学習活動・子どもの意識》

《働き掛け》

○ 「くろさき茶豆」に興味をもち、「くろさき茶豆」の生産過程の概要を知る。
 ○ 「くろさき茶豆」の生産過程の概要を知る。
 ○ おいしさのひみつはどこにあるのだろうか。
 ○ どのような工夫や努力をしているのか詳しく知りたい。
 ○ 今はどうなっているのか、実際に畑に行ってみてみたい。
 【2時間】

○ 一般的な枝豆を試し食べる。紹介する。資料を与えさせる。
 ○ 「くろさき茶豆」の「すごさ」を調べさせる。
 ○ これから学習したいことを問い、単元を貫く学習課題(☆)を設定する。

○ 茶豆畑の見学に行き、畑を見たり、「くろさき茶豆」をつくっている農家の人の工夫や努力、信念を聞いたりする。
 ○ 苗選び、マルチ、雑草取り、肥料や農薬の散布、生育管理などの工夫や努力が分かる。
 ○ 茶豆農家の人たちが、おいしくて安全な茶豆をたくさんつくろうと、様々な工夫や努力をしていることが分かる。
 【2時間】

○ 茶豆づくりの概要が分かる資料を提示し、調べさせる。
 ○ 分かったことと、まだ分からないことを問い、これから調べたいことを明確にする(学習計画を立てる)

○ 見学で分かったことをまとめる。
 ○ 「くろさき茶豆」をつくっている農家の人たちは、おいしくて、いい茶豆をたくさんつくるために、様々な工夫や努力をしていることが分かる。
 【2時間】

○ 茶豆畑の見学に連れて行き、茶豆の生育の様子や、畑の様子を観察させる。
 ○ 茶豆農家の人に、茶豆をつくる際の工夫や努力、苦労や気持ちを聞いて調べさせる。
 ○ どんな工夫をしているのか
 ○ どんなことが大変か
 ○ どんな気持ちでつくっているのか

○ 収穫の様子(朝もぎ)を調べ、農家の人たちが朝もぎをしている理由を考える。
 ○ 農家の人たちは、新鮮でおいしい茶豆を採るために、朝もぎをしていることが分かる。
 ○ 茶豆の苗植えを体験する。
 【2時間】

○ 見学を通して分かったこと、考えたこと、思ったことを問い全体で共有させる。
 ○ 農家の人たちの工夫や努力、信念をまとめると、どのようなことが言えそうかと問う。

○ 「選別作業」の事実を含んだ生産者の話と作業写真を提示し、学習問題を設定させる。
 【問いを生む働き掛け】

○ 「くろさき茶豆」の収穫の様子を提示し、なぜ、朝もぎをするのかを考えさせる。
 ○ 茶豆の苗植えを体験させる。
 ○ 朝もぎをする理由を確かめさせる。

○ 小グループで、選別作業をした場合としない場合について、既有的認識を基に、因果関係でつなげて起こりうる状況を考え、ウェブマップに表す。
 【1時間】

○ 選別作業をした場合としない場合の豆を提示し、選別作業をした場合としない場合について、どのようなことが起こりそうかと問い、小グループでウェブマップをつくらせる。
 【働き掛け1】

○ 「選別作業をすると、生産者と消費者どちらにとっても良いことがある」と、生産者と消費者の相互関係に気付く。

○ ウェブマップを見させ、誰にとってどのようなことがありそうかと問う。
 【働き掛け2】

○ 学習問題についてどのようなことが言えそうか、全体で考えを交流し、仮説を立てる。

○ 学習問題についてどのようなことが言えそうかを問い、考えを交流させる。
 【働き掛け3】

○ 仮説を確かめることにより、選別作業の目的が分かる。
 【1時間】

○ 「くろさき茶豆」の生産者に電話をし、必要な情報を収集させる。
 【働き掛け4】

○ 学習のまとめとして、「くろさき茶豆」PR 新聞をつくる。 【2時間】

○ 学習のまとめとして、新聞をつかって家族に紹介することを提案する。

6 本時の構想

(1) ねらい

選別作業をした場合としない場合で起こりうる状況を考えるを通して、商品と購買・販売との因果関係や生産者と消費者の相互関係に気付き、選別作業の目的について考えることができる。

(2) 主張（展開）3Q（45分）

このような子どもに（C0）

- ・「くろさき茶豆」が新潟市を代表するブランド品であること／西区の旧黒埼地域の特産品であること／味が良く、他の枝豆と比べて高値で売られていること／市内だけでなく、県外にも流通していること／多くの消費者から高評価を得ていることなどを知っている。
- ・「くろさき茶豆」をつくっている農家の人たちの大まかな仕事の様子を知っている。（土作り／種まき／苗選び／苗植え／マルチがけ／草取り／追肥／害虫予防農薬散布／剪定）
- ・農家の人たちの仕事に見られる工夫や努力、苦勞を知っている。
- ・たくさん茶豆をつくるために、様々な機械を使っていることを知っている。
- ・農家の人たちが、おいしく安全な茶豆をたくさんつくりたいと、信念をもって様々な工夫や努力をしていることを知っている。
- ・収穫時は、新鮮でおいしい茶豆を採るために、朝2時頃から日が昇るまでに朝もぎをしていることを知っている。
- ・収穫後、厳しい基準で茶豆の選別作業をしていることや、その結果4割から1割の茶豆は出荷できず廃棄されていること、毎日3時間くらいの時間が掛かることを知らない。
- ・生産者が消費者の購買、消費と生産者の利益を意識して、本当においしい、いい茶豆だけを選んで出荷していることを知らない。

このように働き掛けると【問いを生む働き掛け】

- 説明「みんなはこれまで、くろさき茶豆のおいしさのひみつを探ろうと学習してきましたね」ところで、今日は、農家の人たちがしている仕事について、付け足しの情報が届きました」

指示「この写真を見てください。何をしているところだと思えますか」

※農家の人たちが選別作業をしている写真を提示する。

説明「この仕事は毎日2、3時間、農家の人たちが手作業で行っているそうです」

- 説明「この作業について、農家の人の話を聞いてみましょう」

※事前に取材した農家の人の話（資料1：模造紙）を分割提示する。

私たち「くろさき茶豆」の生産者は、茶豆を収穫したらすぐに、写真のような選別作業を2回から5回繰り返して行っています。毎日2、3時間機械と手作業で集中して行っています。作業中はみんな真剣です/しかし、この選別作業をすることで、収穫した茶豆が100kgあったとして、出荷できる茶豆は60～90kgになってしまいます。そして、残りの40kg～10kgは「くろさき茶豆」として出荷できず、枝や葉と一緒に全て捨ててしまうことになるんです。捨てた豆は堆肥にします。とても大変で厳しい作業なんですよ。

指示「驚いたことや疑問に思ったことを発表しましょう」

※補助発問：「どうしてそう思ったのか」「どうなっていると思ったのか」と理由を問う。

※すでに予想を話す子どもには、今どんなことについて考えているかを問う。

※子どもの驚きや疑問を黒板に記す。

発問「みんなの疑問をまとめると、どのような学習問題がつくれそうですか」

- 指示「学習問題についての予想をワークシートに書きましょう」

このようになり【問い】

- 提示された写真を見て、何をしているところなのかを考える。
 - ・流れてくる茶豆を見ているんじゃないかな。いい豆だけを選んでるのかな。
 - ・大きさとか、腐っていないかとかを見ているんじゃないかな。
- 農家の人の話を聞き、驚いたことや疑問に思ったことから、学習問題を設定する。
 - ・「くろさき茶豆」として出荷できるのが100kgのうち60kgなんて厳しいな。
 - ・農家の人たちは、売れる量が変わってしまうのに。（・食べられる量が少なくなるのに）
 - ・ちゃんとくろさき茶豆なのに、捨てて肥料になるなんてもったいないな。
 - ・たくさん出荷した方が儲かるのに、なんでたくさんの茶豆を捨ててしまうのだろうか。
 - ・なんでそんなに厳しいのだろうか。どんな豆が出荷できて、どんな豆が捨てられるのかな。
- ◎ちゃんと高級ブランド品のくろさき茶豆なのに、なんで選別作業をして捨ててしまうのだろうか。
- 学習問題についての予想をワークシートに記述する。
 - ・病気だったり、小さかったりする豆は食べられないから、取り除くためにしていると思う。
 - ・本当においしい豆だけを出荷したいから、いい豆だけを選ぶためにしていると思う。
 - ・変な豆だとお客さんに買ってもらえないから、変な豆を取り除くためにしていると思う。
- * 上記のように、学習問題に正対する予想をワークシートに記述できていたら、問いをもてたと判断する。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- ※授業開始時に、小グループ（生活班）の形で座っている。
- 説明「前の時間、みんなはこのような学習問題をつくっていましたね。それでは、今日はこの学習問題についてみんな考えていきましょう」
- ※学習問題のフリップを黒板に提示する。
- 説明「前の時間、どんな豆が出荷できて、どんな豆が捨てられるのかという質問がありました」
- 説明「今日はまず、みんなに選別作業をした場合の豆の写真と、しない場合の豆の写真を用意しました。見てみたいですか。それでは班に配るのでよく見てみましょう」
- ※（資料2）選別作業をした場合の豆の写真と、しない場合の豆の写真を各班に配る。
- ※黒板にウェブマップを貼る。また、指示を行った後、各班にウェブマップを配る。
- 発問「選別作業をした場合としない場合とでは、どのようなことが起こりそうですか」
- 指示「これから、各班にウェブマップを配ります。選別作業をした場合としない場合とで、どのようなことが起こりそうか、班で話し合っウェブマップに書き込んでいきましょう」
- ※プロッキーを配当し、話し合っ考えたことをウェブマップの形でマップに書くように指示する。
- ※補助発問：机間巡視をして、「そうするとどうなるのか」「なぜそうなるのか」「他にどのようなことが起こりそうか」と問う。
- ※机間巡視をして、生産者と消費者など、複数の立場で起こりうる状況をマップに書き込んでいたら、次の働き掛けを行う。

このようになり (G1)

- 選別作業をした場合としない場合について、起こりうる状況を話し合い、ウェブマップに表す。
- | | |
|--|---|
| <p>【選別作業をした場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選別作業をすると、いい豆だけが選ばれる。 ・いい豆だけだと、お客さんが買いたくなる。 ・いい豆だけだとよく売れる。 ・豆が売れば、つくった人が儲かる。 ・いい豆は本当においしいそうだから、お客さんは買いたくなる。 ・実際に食べた人はおいしいと思う。 ・食べた人が喜ぶ。 ・喜んでくれたらつくった人はうれしい。 | <p>【選別作業をしない場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しないと悪い豆も出荷される。 ・悪い豆が入っていると買いたくなくなる。 ・食べたいと思わない。 ・悪い豆が入っていると売れない。残る。 ・売れなければ豆が残るし儲からない。 ・つくった人は悲しくなる。 |
|--|---|

このように働き掛けると【働き掛け2】

- 発問「どの班もウェブマップができてきましたね。今、みんなで作ったマップに書いたことを見ると、誰にとってどのようなことがありそうですか」
- 指示「班のみんなで話し合っみましょう」
- ※気付いたことはマップに書き込んでよいことを伝える。
- ※補助発問：机間巡視をして、「マップのこのことは、誰にとってどのようなことなのか」と問う。
- ※生産者や消費者にとってよいこと、悪いことという発言が出てきたら、次の指示を行う。
- 指示「それでは、誰にとってどのようなことがありそうか考えたことを発表しましょう」
- ※子どもの発言を、選別作業をした場合としない場合とで分けて板書する。
- ※補助発問：「なぜそのように考えたのですか」と根拠を問う。
- ※「生産者と消費者のどちらにとってもよいことがある」という発言が出たら、次の働き掛けを行う。

このようになり (G2)

- ウェブマップを見ながら、誰にとってどのようなことがありそうかグループで話し合う。
 - 学級全体で話し合う。
- | | |
|--|---|
| <p>【選別作業をした場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買いたくなるということは、買う人にとっていいことがある。 ・お客さんが買いたくなっ売れるということは、つくっている人にとってもいいことだ。 ・買う人にとってもつくっている人にとってもどちらにとってもいいことがある。 ・そうか、選別作業をするとこんなふうに、農家の人にも買う人にもいいことがある。 ・逆に、選別作業をしないと、農家の人にも買う人にも悪いことがある。 | <p>【選別作業をしない場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買いたくなくなるのは買う人にとって悪いことがある。 ・売れないからつくっている人にとっても悪いことだ。 ・買う人にとってもつくっている人にとってもどちらにとっても悪いことがある。 |
|--|---|
- *生産者と消費者の立場をつなげ話し合っている姿が見られたら、「関係付けるすべ」を使っっていると判断する。

このように働き掛けると【働き掛け3】

- 説明「みんなは、このような学習問題をつくってましたよね」※学習問題を指す
- 発問「みんながウェブマップをつくっ気付いたことから考えると、学習問題についてどのようなことが言えそうですか」

- 指示「考えを発表しましょう」「ワークシートに自分の考えを書きましょう」
- ※補助発問：「○○さんは、どうしてそのように考えたのですか」
 - 説明「なるほど、みんなはこのように考えているのですね」
 - 発問「みんなの考えたことは正しいのでしょうか」
 - 発問「今、何が分かればみんなの考えが正しいかどうか分かりそうですか」
 - 発問「どうすれば分かりそうですか」
 - ※農家の人に聞いて調べるといふ考えが出たら、次の働き掛けを打つ。

このようになる (G3)

- 学習問題について、全体で考えを交流し、自分の考えをワークシートに書く。
 - ・本当にいい豆だけを選んで出荷すれば、お客さんも買いたくなるし、買ってもらえれば豆が売れて農家の人もうれしいじゃないですか。だから選別作業をするのだと思います。
 - ・もしも選別作業をしなれば、悪い豆も一緒に入ってしまうよ。そうすると、お客さんは買いたくなくなるし、買ってもらえなければ豆は売れないじゃないですか。だから、いい豆だけを選んで出荷しているのだと思います。
 - ・「くろさき茶豆」はブランド品で、買う人が本当にいい豆だと思って買うから、悪い豆だともう買いたくなくなってしまうと売れなくなる。だから、本当にいい豆だけを選ぶためにやっているのだと思います。
 - ・買った人が、「くろさき茶豆」はやっぱりおいしいと思って、また買ってくれるようにするために、本当にいい豆だけを選んでいるのだと思います。それに、また買ってもらって売れば、農家の人も儲かって、どちらにとってもいいことだから、選別作業をするのだと思います。
- ※補助発問：「なぜそのように考えたのですか」と根拠を問う。
- *選別作業をした場合に起こりうる結果と、選別作業をしない場合に起こりうる結果や、生産者の立場と消費者の立場とをつないで選別作業の目的について考えを述べていたら、「関係付けるすべ」を使っていると判断する。
- 仮説を確かめるために必要な情報と、情報を得るための方法を考える。
 - ・農家の人が本当にいい豆だけを選んでいることが分かればいい。
 - ・農家の人が、たくさんの人に買ってもらいたいと思っていることが分かればいい。
 - ・買う人が期待しているかや喜んでるかどうか分かればいい。
 - ・農家の人に聞いてみたい。聞きに行く。電話をして聞いてみる。

本時ここまで

このように働き掛けると【働き掛け4】

- 説明「なるほど、ここに電話があるのですが、電話をかけて聞いてみますか」
- ※代表の子どもに、電話をかけさせ、農家の人に質問させる。
- ※農家の人に聞いて分かったことを板書する。
- 発問「農家の人の話を聞いて、みんなはどう思いましたか」
- 説明「みんなはこのような学習問題をつくって、いろいろなことを考えてきましたね」
- 指示「これまでの学習のまとめとして、分かったことや考えたこと、思ったことをワークシートに書きましょう。

このようになる (Gn)

- 農家の人の話を聞き、必要な情報を収集する。
 - ・やっぱりたくさんの方が「くろさき茶豆」を喜んで買ってくれるようにするために、本当においしい、いい豆だけを出荷しようとしていたんだ。
 - ・実が太りすぎていてもだめで、丁度いい大きさの豆だけを選んでいたなんてすごいな。
 - ・本当においしい「くろさき茶豆」だけを出荷するから、「くろさき茶豆」はたくさんの方に買ってもらえるし、他の枝豆より高くても売れるんだ。だからブランドなんだ。
- 学習のまとめとして、分かったことや考えたこと、思ったことをワークシートに記述する。
 - ・選別作業をして、本当においしい、いい豆だけを出荷すれば、買う人は喜んで茶豆を買ってくれるし、買ってもらえたら農家の人もうれしくなる。だから農家の人たちは、買う人のことを考えて選別作業をしているんだ。茶豆をつくっている人たちは本当にすごいと思いました。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 活用の場面で、構想した働き掛けにより、想定した「考えるすべ」を使って、既有の類似した知識や経験をつなぐことができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、学びをつなぐ力を高めた姿になったか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3を受けて、「関係付けるすべ」を使って、 のように選別作業をした場合に起こりうる結果と、選別作業をしない場合に起こりうる結果や、 生産者の立場と消費者の立場とをつなぎ、選別作業の目的を考えることができたかどうかを、発言やワークシートの記述から検証する。
- ② 働き掛け4を受けて、 のように、生産の仕事に共通する中心概念をとらえることができたかを、ワークシートの記述から検証する。

※上記①②の両方の記述があれば表れありと判断する。